

ふれあい

No.7

編集発行 上越市立春日小学校

「やさしくいきる」

○ 知育・徳育・体育

春日小学校の教育目標は「やさしく かしこく たくましく」です。多くの学校に見られる「知・徳・体(春日小は徳・知・体)」の構成です。この三育は、イギリスの学者が150年以上前に提唱し、福沢諭吉の「学問のすゝめ」で紹介され、日本に広まっていったそうです。



また、玄関前のアプローチには、教育目標に呼応するかのよう
に、3つの石像・石碑(二宮尊徳と上杉謙信の石像、小川末明の句碑)があり、職員玄関には、画像でお示し
した書が飾られています。(学校のHPにも鮮明な画像があります)

教育目標はこのままでいいのかという思いは赴任以来ずっと持ち続けていますが、そこに込められた思い
や積み重ねられた歴史を追懐することも大切だと考えています。

○ 小川末明生誕140周年のイベントから

今年は、日本の児童文学の礎を築いた、郷土の偉人小川末明の生誕140周年です。年間を通じて記念イベン
トが開催されています。春日小学校でも、4年生が総合的な学習の時間に、上越教育大学の小笠裕二教授の講
話を聴いたり、末明作品の感想文を書いたりしました。

私も、先日、小川末明文学館特別展を見学してきました。小学生時代に読んだ作品を思い出しつつ、末明の
生涯と業績に触れることができました。中でも、強く印象に残ったのは、ポスターにもある「弱き者の為に立
ち代弁なき者のために起つ 我これを藝術の信条となす」という言葉です。

○ 偉人の生き方に学ぶ～今、育みたい「やさしさ」とは

小川末明が作品に込めた「相互扶助、人を深く思いやる心」は、未来を創っていく子どもたちはもちろん、
あらゆる世代の人々が、今一度作品を通して考えたいことです。また、上杉謙信の「義の心」とともに、大切
にしていかなければならないと考えています。社会の変化に対応して教育目標も見直されるべきと言われま
すが、もう少し、じっくりと考えを巡らせてみようと思っています。

☆春日地域青少年育成会議が主催した「さわやかあいさつ運動」(9/26～10/28)の取組、ありがとうございました。
引き続き、明るく活力ある地域づくりのためにステキなあいさつを響かせましょう。

【校長 星野浩一】

すまいる学級



すまいる学級では、一人一人に合わせた内容を個別や小グループで学習しています。国語、算数だけでなく、社会性に関する内容も学習しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防に努めながら3年ぶりに高志小学校との交流会を実施しました。交流会では、スポーツ推進委員の方から「ポッチャ」というスポーツを教えてくださいました。他校の友達と協力し、「いいね!」「やったね!」など声を掛け合う姿が見られました。コミュニケーションをとり、人との関わり方も学ぶ機会になりました。



赤と青のボールを投げてゲームを行いました



私は、班長になりました。みんなを並ばせたり、声を掛けたりしました。ポッチャのボールを投げる時、「班長、頑張って」と応援してくれてうれしかったです。来年も楽しみです。
(児童の感想より)

楽しいね! クラブ活動

今年度は、9月からクラブ活動を行っています。4回(計8時間分)の実施となります。4年生以上の子どもたちが、13のクラブに分かれ、異学年で活動しています。どのクラブでも笑顔で意欲的に活動する子どもたちの姿が見られています。「生け花」「箏」「卓球」「ダンス」クラブでは、地域の方や上越市にお住まいの方に講師として参加していただき、丁寧に指導をいただきました。ありがとうございました。

